

平成 16 年 5 月 24 日 決算発表 質疑応答（大阪）

発表内容：平成 15 年度決算発表

日 時：平成 16 年 5 月 24 日（月）14 時 30 分～15 時 10 分

場 所：日銀金融記者クラブ（大阪）

発 表 者：川田社長、深井執行役、大橋財務部グループリーダー

【質疑応答】

Q．特別慰労金はいつどのような形で支給するのですか？

A．支給は 7 月の月上旬を考えております。少しご説明申し上げますと、今般りそなグループでは人事制度を改正し、この新人事制度が 7 月から実行になります。給与制度については従来の賞与の概念をなくしました。年間一回の業績給を払うということになります。従いまして、この 7 月に導入するということは、今年の夏の賞与・冬の賞与がないということにつながりまして、そういった社員の心情も配慮して下期の労苦に報いたいという配慮から特別慰労金を支給したいと考えているわけです。

Q．支給水準は 7 月の前の段階の 0.5 ヶ月分ですか？

A．はい。

Q．トータルでいくら位ですか？

A．グループ総額で 35 億円ほどみております。

Q．平均の金額でどれくらいですか？

A．平均で 25 万円程度です。グループ平均です。

Q．グループの全職員ということですか？

A．はい。

Q．役員については？

A．役員はありません。役員は賞与がありませんから。

Q．特別慰労金をだすにあたって社外取締役から異論はありませんでしたか？

A．社外取締役の方からも了承いただいております。

Q . 中小企業向け貸出目標 1,400 億円に対して半分の結果でしたが、目標を堅めに見積もられていましたが、それでも半分の結果となったのはどういうところに原因があったとお考えですか？

A . 先程申し上げましたが、やはり私どもが想定していた以上に昨年 5 月の「りそなショック」の影響といたしますか、顧客基盤が毀損していました。従いまして、下期に猛然と営業推進をしたわけですが、残念ながら下期の 1,400 億円の計画を達成することは出来なかったということだと考えております。

Q . 16 年度は挽回可能だと考えているのですか？

A . 今、中小企業対策としていろんなことを打っておりまして、新規では社内の用語で「フォルツァ 4000」という 4,000 億円新規で貸そうと、これは 4,000 億円という一社平均 1 億円だといったしまして 4,000 社、5,000 万円ですと 8,000 社新規開拓をしようという膨大な計画です。私どもはリテールの銀行ですから、数をたくさん取って行くというそういう計画を立てております。いろんな体制面としても「中小企業サポートセンター」を作ったり、体制整備をしております、営業マインドもたいへん今盛り上がってますので、現状では達成可能であろうと見ております。

Q . 4,000 億円というのは通期の目標ですか？

A . 16 年度の通期の目標です。新規だけの目標です。

Q . 増加分としてはどれくらいの目標ですか？

A . りそな銀行の新勘定ですと全体で 5,000 億円、このうち新規で 4,000 億円、既存の貸出金で 2,000 億円増やして、それから要注意とか若干少し落とさないといけないものもありますので差し引きで、りそな銀行の新勘定で 5,000 億円です。

Q . 公的資金の返済計画はいつ頃、どのような形で発表するのですか？

A . 出ず時期については、この場でご回答できないのですが、17 年 3 月が集中再生期間の健全化のエンドになる訳ですね。この 11 月にその先の新たな経営健全化計画をだす訳です。もう策定作業には入っておりますが、その中でいろいろ検討していくということのみ今日はご回答させていただきます。

Q . 監査法人は、トーマツさんが加わって、新日本さんと 2 社になるのですか？

A . 共同監査という意味でございます。

Q . 傘下銀行の再編問題についても新たな計画で出すのですか？

A . リソナグループの企業価値の最大化に、こういった再編の形態が一番スピード感があって、企業価値を最大化するかという観点から、今鋭意検討を加えている最中でございます。いわゆる「ビジネスモデル」といったものとあわせて、新しい健全化計画の中に折り込みたいと考えております。

Q . 上林さんは引き続きグループ再編担当を兼務するのですか？

A . そうです。

Q . 共同監査についてなんですが、前も朝日監査法人といっしょにやってらっしゃいましたけど、今回トーマツと新日本監査法人と共同監査体制となって、見解の相違などは発生しないのですか？

A . 前は、共同監査をやっていないのです。昨年、ちょうど共同監査にしようとしている時に、公的資金注入問題がおきてそのまま新日本単独で走ってきました。共同監査自体は、旧行の話はあまりしたくはないのですが、あさひ銀行は朝日監査法人と新日本監査法人で経験済みでございますので、そういう面では、先程ご説明した通り、監査の強化ということで有効だと考えております。トーマツさんについては、昨年のデューデリジェンスを担当していただきましたので、グループ全体の資産内容をつぶさに見てもらってますし、新日本監査法人については従来からずっと見てもらってますので、それなりに強化されるというふうに考えております。

Q . U F J 信託、住友信託の報道がありました。今後、信託の業界再編ということが焦点になるかと思いますが、リソナ信託についてはどのようにお考えですか？

A . 現状では、リソナ信託も集中再生期間中に、いかにして収益を増強させるのかということが最大のテーマになっておりますので、再編ですとかそういった話は検討しておりません。

Q . その答えは以前からと変わらないと思いますが、同じような質問があるたび同じようなお答えですが、環境がガラッと変わったというような認識はありますか？

A . 信託業界の環境が変わったという認識は持っております。ただ、U F J 信託の問題は直近に発表になったばかりでございますので、まだ詳細にグループ内で信託業界の、U F J 信託と住友信託の統合によるインパクトの状況は、まだつぶさに検証しておりませんので、なんとも言い難い状況です。

以 上